

~~~~ 安威川の決壊と鳥飼の排水 ~~~~

寺 西 功

摂津市鳥飼地区は、鳥飼井路という単独水路で輪中堤の下にある三ツ樋から神崎川へ注いでおり、この井路は素堀の土水路であることから排水が悪く、その上、田面が他の地区より低いので、毎年のように冠水する状態でありました。

この冠水の被害を少しでも受けまいよう自衛策として、水田に畝をつくり、その上に苗を植える「畝田」と呼ばれる独特の水田風景が広がっていました。

府営三島平野用排水改良事業の計画では、下流井高野地先で、水位の高い番田井路も含めて神崎川に放流すると聞いていましたので、技術的な話を聞いても、本当に排水がよくなるのか一抹の不安がありました。その心配を払拭してくれたのが皮肉にも昭和42年の安威川決壊でした。

7月7日から降り続いた雨は、9日に至り雨足を強め、最大時間雨量48mm・連続雨量は20時間で263mmという記録的なもので、安威川はみるみる増水し、誓願寺橋・あけぼの橋を押し流し、深夜、鳥飼八町部落の上流、安威川左岸で決壊し、濁水はとうとうと番田井路に流れこみました。

当時、私は水道部の職員として施設を管理する立場から、安威川が決壊したと聞いて現場に飛んでゆきましたところ、そこで目撃したのは、安威川の濁水を改修された番田井路がすべて呑み込んで流れている姿でした。

勿論、計画水位を上回る水位ですから、その水は鳥飼井路に逆流し、鳥飼地区は全面的に浸水したのです。翌10日は昔の冠水状態が再現しており、この様な状況では一週間は水がひかないと推測しましたが、驚いた事に11日の朝には、昨日までの水がすっかりひいておりました。

私はこの時、府営事業に抱いていた不安がどこかにふっ飛んでしまいました。

鳥飼地区も其後どんどん都市化が進んでおりますが、通常の降雨であれば何とか自然排水が可能な状態で、これも三島平野の事業による排水路の改良が最大の要因と思っています。

現在は、公共下水道事業の担当職員として従事している関係から、全市域に可能な限り早期に下水道を完成させ、浸水を解消すべく努めております。

(摂津市 土木部長)